（１）殺菌剤・殺虫剤

　基本的記載内容は以下のとおりであるが、担当専技から電子ファイルの提示があるので、これに準ずる。

|  |
| --- |
|  |

農薬等普及展示(長野県 2019)

(１行空け)

整理番号(全角) 課　題　名（左寄せ）

(１行空け)

農業改良普及センター

(試験場連携試験の場合は試験場名も並記)

(１行空け)

１ 目 的　　(設計書の目的を記入する)

２　設置場所

３　担当者名　　農業改良普及センター　○○○○

農家　○○○○

４　対象病害虫の発生状況

　(1) 展示ほ場における発生状況

　　　　本年：

前年：

　(2) 周辺ほ場における発生状況

　　　　本年：

前年：

５　耕種概要

　(1) 品種名　「○○○」

　(2) 播種日、定植日、樹齢

　(3) 栽植密度

　(4) その他

　　　(あれば記載する)

６　面積区制　１区○㎡(○株、○樹) 、３反復

７　供試薬剤

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 供試薬剤 | 希釈倍数・使用量 | 委託会社 |
| (展)○○水和剤 | 2,000倍　300L/10a | ○○○○(株) |
| (対)○○フロアブル | 1,000倍　300L/10a |  |

８　散布(処理)月日、方法

月日については、作物の生育ステージも記載。方法は散布器具等を記載。展着剤の加用の有無もここに記載。また、散布(処理)に降雨があった場合の影響の有無はここでコメントする。

＜参考＞試験期間の防除実績

|  |  |
| --- | --- |
| 展示区 | 対照区 |
| 散布日 | 薬剤名 | 希釈倍数 | 散布量 | 散布日 | 薬剤名 | 希釈倍数 | 散布量 |
| 7月20日7月30日8月5日 | ○○乳剤○○水和剤○○フロアブル | 1,500倍2,000倍4,000倍 | 300 L/10a300 L/10a300 L/10a | 7月20日7月30日8月5日 | 同左○○フロアブル同左 | 1,000倍 | 300 L/10a |

原則として殺菌剤試験では殺菌剤の散布実績、殺虫剤試験では殺虫剤の散布実績を記載する。効果の判定に影響すると推定される薬剤(微生物殺虫剤試験時の殺菌剤など)が散布されている場合は、殺菌剤、殺虫剤にかかわらず記載する。

＜参考＞試験期間中の降雨

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 月 | 7月 | 8月 |  |  |  |  |  |
| 日 | 30日◎ | 5日 | 8日○ | 12日 |  |  |  |  |  |
| 降水量(㎜) | 5.5 | 0.5 | 1.0 | 7.0 |  |  |  |  |  |

◎：散布(処理)日、○：調査日

降雨があった日のみの記載でよい(散布(処理)日および調査日は降雨がなくても記載する)。散布(処理)日に降雨があった場合は、「散布前の降雨で試験への影響はなかった」、「散布○時間後の降雨で試験への影響がなかった」、「試験への影響があった」などのコメントを「８　散布(処理)月日、方法」の項に記載する。

９　調査月日、方法

　(試験設計に基づく調査方法を記載する。)

10　展示成績

表でデータを示す。反復(疑似反復を含む)がある場合は、区間のふれが分かるようにするために各反復毎のデータも示す。天敵昆虫の試験等長期にわたる場合は、折れ線グラフなどを活用して天敵放飼日、農薬散布日等を矢印等を用いてわかりやすく記載する。

11　考察

基本的には下記の文面、内容で記載する。

(1)病害虫の発生状況など判定内容に影響するような事項があれば、冒頭で記載する。

(2)(作物名)の(病害虫名)に対し、(展示薬剤名)○倍液散布は、対照の(対照薬剤名)△倍液散布と比較して(優る、やや優る、△倍液散布と同等の、など)効果が認められた。

(3)薬害(汚れ)は認められなかった。

　(4)(効果、薬害(汚れ)以外で特記すべき事項があれば記載する。例：処理のしやすさなど。)